



1800×1500×2000mmのボックスカルバートを131個敷設(提供・永井組)

発注は愛知県江南市都市整備部都市整備課。工事は「都市構造再編集」事業名で「雨水貯留施設設置工事」で、工事全般は永井組(江南市、永井組)が担当。貯留施設は雨水貯留施設として雨水貯留施設と雨水排水路を一体的に構築する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。

騒音対策にECCO・C・L工法
発注は愛知県江南市都市整備部都市整備課。工事は「都市構造再編集」事業名で「雨水貯留施設設置工事」で、工事全般は永井組(江南市、永井組)が担当。貯留施設は雨水貯留施設として雨水貯留施設と雨水排水路を一体的に構築する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。

旭コンクリート工業

審査証明ボックス型初

新ボックス型アグア 江南市で初施工

旭コンクリート工業が開発した雨水貯留施設「新ボックス型アグア」が、愛知県江南市布袋駅前の雨水貯留施設設置工事で材料承認を受け、このたび施工が始まった。同製品は2018年に開発。ボックスカルバートを用いた雨水貯留施設としては初めて、先端建設技術センターの建設技術審査証明を取得している。

必然的に工程の制限を受ける。当初検討したプラスチック製の貯留槽では浮力に対する抵抗性が低いため、コンクリート製品の採用となった。また上部は駅前広場として利用されるため、維持管理・車両等の荷重に対する耐力も必要になることも考慮した。

工期は昨年6月26日から今年7月30日。地盤調査から始まりポンプで地下水を連続的に吸い上げながら掘削された。ボックスカルバートの据え付けが完了した。現場打ちコンクリートで底版と側壁を構築する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。この地区は地下水位が高く、雨季には冠水が度々発生する。



布袋駅東地区の雨水冠水対策として整備

完成後はすでに設置されている河川への排水路と接続する。雨水量に対応して貯留槽に流入し、水の減少と共に排水路へ排出、河川へ流入する。新ボックス型アグアは、端部用ボックスカルバートを連続的に敷設し、中間用ボックスカルバートを一部材ごとに一定の間隔を設けて縦横両方向に敷設する。ボックスカルバートの底版部のあらかじめ設置されたインサートに、現場で継手鉄筋を接合し、施設底部に配置する鉄筋と強固に結束させ、現場打ちコンクリートを打設する。また、頂版スラブは、ボックスカルバート間に

架設する。今回の貯留槽は1800×1500×2000mmのボックスカルバートを131個敷設し、159個の頂版スラブを架設する。施工はクレーンでボックスカルバートを吊り降ろし、同社の開発したCO2を排出しないパワテリィ作動の無騒音台車を使用する「ECCO・C・L工法」により所定の位置に搬送、正確に据付ける。ボックスカルバートの数を減らし底版に場所打ちコンクリートを使用することで貯留量を増やしコストを低減できる。新ボックス型アグアは今後2件の採用が決まっており、全国的な普及を目指す方針。

二次製品談話室



「我々の仕事と製品」として試みには非常に「アクリル板の横に貼られたボスターにも工事内容がイラストで分かりやすく描かれていて良いアイデアだ。一般の方々にも安心・安全、生活に密着した我々の仕事に少しでも興味と関心を持っていただければ」と期待する。現場は安全のためスチールの板で囲っているが、元請の永井組の「アグア」が愛知県江南市布袋駅前の雨水貯留施設で採用された。施設設置工事で初採用され、現在工事が進められている。同地区の雨水による冠水被害を防ぐのが目的。

ちよつとした試み

雨水貯留施設 新ボックス型アグア
(一財)先端建設技術センター 技術審査証明取得
プレキャスト部材であるボックスカルバートと頂版スラブ、および現場打ちコンクリートで構築する底版部と端部壁の組み合わせからなる雨水貯留施設です。
日本雨水貯留システム協会 新ボックス型アグア工法部会
東京都中央区築地1丁目8番2号 TEL.03-3542-1201 FAX.03-3545-1207
※一部構成を変更しています。